

国語科学習指導案

日時 平成21年10月16日(金) 5校時
学級 2年2組 (男子13人 女子17人)
指導者 盛岡市立厨川中学校 教諭 長畑由美子

- 1 単元名 古典に親しむ
教材名 仁和寺にある法師―「徒然草」から―

2 単元について

(1) 生徒について

生徒は、1学年において「いろは歌」「竹取物語」「故事成語」の中で、古文や漢文のリズムや特徴に触れながら、登場人物の心情や故事成語の誕生の由来などについて学習をしてきた。初めて学習した昔の言葉の音読や暗唱、物語のおもしろさに興味・関心をもち、1年間の学習のまとめの中で、三割程度の生徒が、心に残った教材として挙げている。しかし、古典の文章や言葉には、「面白い」と反応する生徒がいる反面、「難しい」と苦手意識を持っている生徒もいる。

全体的に落ち着いて話を聞き、真剣に学習に取り組む。男子が積極的な反応を見せ、女子は静かであるがじっくりと考える生徒が多い。男子にリードしてもらいながら、女子も巻き込み活気のある授業を作りたい。

(2) 教材について

第1学年での「古典との出会い」を経て、本単元は「昔の人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ」ことを目標とする単元である。本単元は、「枕草子」、「平家物語」、「徒然草」、それに「漢詩」の名作という4つの教材で構成されている。どれも古典文学中の華といえる作品であり、普遍性のある作品が並んでいる。原文中心に教材が構成され、古文や漢文の表現から古人の心に触れ、それを自らの問題として考えていながら、古典に親しむ学習を目指している。

本教材の「徒然草」は、「C 読むこと 第2学年のエ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」を中心とし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 第2学年 (1)アの(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」を主たる目標とする。

「徒然草」は、随筆という文学形式の中で、兼好法師の独自の世界観を提示した作品である。簡潔で無駄がなく、リズム感に満ちた文章の中に無常観が漂い、人間の生き方に大きな示唆を与えてくれる。その内容もさまざまであり、多方面に及ぶのも特徴である。その中から本教材として、序段と、説話的な出来事に内在する人間の意識や生活上の問題を述べた、第五十二段「仁和寺のある法師」が取り上げられている。読みやすくわかりやすい内容であり、古典の随筆に親しむものとしてふさわしいものといえる。

(3) 指導について

2学年では、「枕草子」「扇の的」をすでに学習している。「枕草子」では、第一段を取り上げ、音読を楽しむことを主とし、清少納言の美意識や季節感を読み味わった。「平家物語」では、平曲として語られたという教材の性格を踏まえ、音読を重視しながら登場人物の心情や合戦場の臨場感に触れてきた。そこで、本教材「徒然草」では、まず、現代にも通じる人間の生き方に対する兼好法師のものの見方や考え方にふれさせたい。そのために、教科書に掲載されていない他の章段の現代語訳を多く読ませて、様々な話題についての兼好法師の簡潔明瞭な指摘から、幅広い教養や教訓、求める生き方などに触れさせる。興味をもった章段を選ばせ、その理由を書かせることにより兼好法師との距離が縮まるものとする。

次に、教材文「仁和寺にある法師」を古文で読み、話の構成や具体例のおもしろさを捉えさせていく。そのために、古語の意味や古典の特徴をとらえて口語訳をつけさせて内容を理解させる。誰しもがやってしまいそうな失敗談とそれを身分ある仁和寺の法師がやってしまったことのおかしさを挿絵を参照しながら読み取らせる。さらに、最後にずばりと意見を書く兼好法師と同じ構成でエッセイを書かせる活動を行う。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

自分の経験と照らし合わせながら、古人の心に触れ、古典への興味・関心を高めることができる。

(2) 書く能力

登場人物や話の展開に対する自分の考えや筆者の考えに対する自分の考えを書くことができる。

(3) 読む能力

作品の内容を理解したうえで、古文・漢文の特徴や独特のリズムなどを味わいながら音読できる。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

昔の人のものの見方や考え方にふれることができる。

漢詩・漢文特有の表現や基礎的な知識を獲得することができる。

作品の特徴を生かして朗読することができる。

4 指導計画と評価

時	主な学習内容	学習活動における具体的な評価規準			
		国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 古典の学習について思い起こし、目標や学習の見通しを確認する。 「枕草子」や「清少納言」について理解し、原文を音読する。 	古典の文章に興味・関心を持ち、音読しようとしている。		古文特有の言葉遣いやリズムなどを感じ取りながら、正確に音読することができる。	
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳を参考にして、清少納言がそれぞれの季節にふさわしいものとしてあげているものを理解する。 	作者の季節感を感じ取り、自分の季節感と比べようとしている。		作者の季節感を感じ取り、自分が感じる四季の季節感と比べることができる。	
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」について、成立年代や作品の特徴などについて理解する。 「平家物語」の冒頭部分を読み、内容を理解する。 「扇の的」の現代文を読んで、内容を理解する。 	平家物語や扇の的の場面、登場人物に思いをめぐらせようとしている。		平家物語の特徴や扇の的の場面の状況を読み取ることができる。	
第4時	<ul style="list-style-type: none"> 「扇の的」の原文を読み、語り物独特のリズムに慣れる。 	表現や文体の特徴をとらえてながら、場面や情景を豊かに思い描いて読もうとしている。		文語文のリズムに慣れ親しみ、状況や心情に着目して様子をイメージしながら読むことができる。	
第5時	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちについて話し合い、武士たちの姿に迫る。 場面を考え、読み方を工夫しながら音読する。 	的を射ようとする与一やそれを見守る人々の心情について考えようとしている。		それぞれの人物のおかれた立場を理解しながら読み、自分なりの感想をもつことができる。	作品の特徴を生かして、朗読する。
第6時	<ul style="list-style-type: none"> 「徒然草」や「兼好法師」について理解する。 教科書以外の章段を読み、ものの見方や考え方にふれる。 	兼好法師のものの見方や考え方に着目して、感想を書こうとしている。			「徒然草」を読み、兼好法師の述べていることをとらえて感想を書いている。
第7時	<ul style="list-style-type: none"> 「仁和寺にある法師」を古語の意味や古典の特徴をとらえて口語訳しながら、内容を理解する。 	古文の特徴をとらえながら、内容を理解しようとしている。		文章のあらましを現代語でまとめ、この話のおもしろさをとらえている。	古語と現代語の対応を理解し、文脈の中で古語の意味をとらえている。
第8時	<ul style="list-style-type: none"> 「仁和寺にある法師」の話の構成を参考にしながら、身近かな話題についてエッセイを書く。 	自分の身近なことや見聞きしたことから、「先達はあらまほしきこと」等の例を見つけようとしている。	自分の体験や見聞きしたことを題材にして、「仁和寺にある法師」の構成を参考にしながらエッセイを書くことができる。		
第9時	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩や漢文の基本的な約束ごとを理解する。 「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の詩を漢詩特有のリズムをとらえて音読する。 	漢詩独特のリズムにふれ、漢詩独自の言葉遣いやリズムをとらえながら、進んで音読しようとしている。		漢詩特有の調子を生かして音読することができる。	漢詩や漢文の基本的な約束事を理解することができる。
第10時	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩とその解説文を読み、描かれた情景や心情をとらえる。 	漢詩に親しみ、描かれた情景や心情をとらえようとしている。		漢詩に描かれている情景を想像し、作者の心情を理解することができる。	

5 本時の学習

(1) 学習の目標

「徒然草」の教科書以外の章段を読み、心に残った段について理由を書くことができる。

(2) 指導の構想

本時は、「徒然草」に初めて出会う時間になる。教科書教材以外のさまざまな章段を読ませることによって、「徒然草」の魅力である、兼好法師のものの見方や考え方に触れさせることを目指したい。読みやすくわかりやすい口語訳を利用し、複数段を読ませる。最初に兼好法師の考え方に触れさせ、現代に通じるものであるという実感をもたせ「仁和寺にある法師」につなげたい。

初めに、身近な話題である「よい友悪い友」について、自分の考えを持たせてから、兼好法師の考えを紹介することにより、興味をもたせ、意欲につなげる。次に、悩みに答える形やクイズ形式をとり、生徒の考えと照らし合わせながら、兼好法師の考えを紹介する。さらに、共感できる度合いを意識させながら、個人で複数段を読ませた後、心に残った段・好きな段を選ばせ、その理由を書かせることにより、主体的な学びがあり、兼好法師が身近な人となるようにさせたい。こうして随筆を読む楽しさやおもしろさを感じさせながら、他の段も読んでみたいという意欲につなげたい。

(3) 評価規準

観点	十分に満足できる状況 A	おおむね満足できると判断できる状況 B	努力を要する生徒への支援 C
国語に対する関心・意欲・態度	自分のものの見方と兼好法師のものの見方を比べながら、積極的に兼好法師のものの見方にふれようとしている。	自分のものの見方と兼好法師のものの見方を比べ、共通点や相違点を見つけようとしている。	自分の考えに近い語句に注目させ、共通点を意識させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	兼好法師のものの見方や考え方をとらえて、自分の価値観と照らし合わせながら、心に残った段・好きな段を選び、その理由をより具体的に書くことができる。	兼好法師のものの見方や考え方をとらえて、自分の価値観と照らし合わせながら、心に残った段・好きな段を選び、その理由を書くことができる。	共感する気持ちが多かったものから選ぶように助言する。その理由を書くにあたっては、手本となる文章を提示し、参考にさせる。

(4) 本時の展開

段階	学習活動	教師の指導・支援	◇留意点◆評価
導入 10分	1 「よい友、悪い友」について、自分の考えを持つ。 2 本時の学習のねらいを把握し、本時の学習に対する意欲をもつ。	1 「自分が友達にするのによくない人、よい人」を考えさせる。 ・ 数名発表させる。 ・ 兼好法師の意見を紹介する。 2 自分の体験と照らし合わせながらさまざまな段を読み、兼好法師の考え方に触れることを確認させる。	◇一人一人に自分の考えを持たせる。 ◇予想させながら、紙板書で紹介する。
徒然草のさまざまな段を読んで、兼好法師の考え方にふれよう。			
展開 35分	3 「男子たるものの教養」の中の一つを考える。次に「悩み相談」への回答を発表する。 4 個人で複数の章段を黙読する。どの程度そう思うかという印をつけながら読む。 5 心に残った段・好きな段を選び、その理由を書く。 6 心に残った段・好きな段とその理由を発表する。	3 「男子たるものの教養」は、三択から選ばせながら紹介する。次に事前にかかせておいた悩み相談への回答を発表させたあと、兼好法師の考えを紹介する。 4 個人で複数の章段を黙読させる。共通点や相違点を意識しながら共感した度合いを記入させる。 5 心に残った段・好きな段を選び、その理由を書かせる。 6 心に残った段・好きな段とその理由を発表させる	・ 生徒の予想や反応を大切にしながら進める。 ・ 自分の考えや体験等と照らし合わせる。 ・ 自分の体験や考えと照らし合わせ、理由を具体的に記入させる。 ◆自分の心に残った段・好きな段を選び、その理由を書いているか。 <記述内容・発表内容> ◇ 指名発表。自分の考えと比較しながら聞き、理解を深めさせる。

<p>終末 5分</p>	<p>7 本時の自分の学習を振り返り、自己評価をする。</p> <p>8 次時は「仁和寺にある法師」を学習することを確認する。</p>	<p>7 本時の自分の学習を振り返らせる。取り組み方やわかったことを記入させる。</p> <p>8 次時は、「仁和寺にある法師」を古文で読んでいくことを知らせる。</p>	<p>◇本時の学習で得たことを、次の学習に生かすよう助言する。</p>
------------------	---	---	-------------------------------------